

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.3(2018年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『宇宙一わかりやすい高校化学 理論化学』 船登 惟希

好評の「宇宙一わかりやすい」シリーズの参考書です。作者の船登惟希氏は、東京大学在学中から本を出版、卒業後は会社に就職して良い業績を上げていました。しかし、「この仕事は自分以外の人でもできるのではないか。」という思いを消すことはできず、「この人でなければ出来なかったと言われるようなコンテンツを提供したい」と彼は独立を決意。現在の肩書は「参考書作家」、という経歴の持ち主です。丁寧な解説とイラストで、化学が苦手な人にも読んでもらいたいです。

『iPhone で撮影・編集・投稿 YouTube 動画編集 養成講座』 SHIN-YU

男子中学生の「あこがれの職業」第3位はユーチューバー。(ちなみに「親が子どもにやらせたくない職業」の1位も、ぶっちぎりでユーチューバーですが。) この本は、パソコンではなくて携帯電話のiPhone (アイフォーン) を使ってユーチューブに投稿する方法をテーマとしています。基本的な作業から、トリックを使った「アツと驚く」特殊な映像表現まで、幅広く解説してくれますよ。

『かがみの孤城』 辻村深月

全国の書店店員が「今一番売りたい本」を選ぶという「本屋大賞」の、2018年度の受賞作がこれです。

主人公の中学1年生の「こころ」は、いじめが原因で不登校となります。毎日自宅で過ごしていたところ、ある日突然部屋の鏡が輝きだし、その鏡を通り抜けるとそこは大きな城でした・・・

作者は十代の頃の自分を「たった一人の信頼できる読者」と考えており、「もしもタイムマシンであの頃の自分に一冊だけ自分の小説を渡せるなら、この『かがみの孤城』を渡したい。」のだそうです。

『成吉思汗(ジンギスカン)の秘密』 高木 彬光

悲劇の死を遂げた源義経は、実際には死なずに中国大陸に渡り、ジンギスカンとなった・・・という昔から言い伝えられている「義経=ジンギスカン説」を検証した歴史ミステリーです。「日本の三大名探偵」の一人、神津恭介が入院先の病院で、暇つぶしにこの謎に挑戦します。

このほか、「このミステリーがすごい! 2018年版」第1位の今村 昌弘『屍人荘の殺人』が入りました。

『友だち幻想』 菅野仁

テレビ番組「世界で一番受けたい授業」で又吉直樹氏が推薦したので、10年前のこの本が今また脚光を浴びています。今の若者は何よりも友だちを重視する傾向が強いのですが、その反面、友だちからのラインやメールに即レスしないといけないという強迫観念があったりなど、人間関係に悩んでいる人も少なくありません。本書の作者は、そうした人は「リアルな友だち」ではなくて「友だち幻想」に取りつかれてしまっているのだ、と言います。この本を読んで、リアルな人間の姿について考えてみませんか。ちなみに恋愛についても解説しています。

サッカー・ロシアワールドカップに関する本を購入しました!

そのTV視聴者数はオリンピックの47億人(2008年)を超えて、何と263億人(2006年)! サッカーW杯は、まさに世界最大のスポーツ選手権大会ですね。その4年に一度の決戦の 때가、いよいよ6月14日から始まります。『ロシアワールドカップ出場32カ国徹底ガイド』で、注目の選手や監督、チームの特色などをつかんでおけば楽しさも倍増!? また『サッカーロシアW杯新戦術2018』は、より戦術面の解説が詳しい、「サッカー好き」のための本です。中でも「ハリル・ジャパン完全解析」という特集ページは、当のハリルホジッチ氏が解任されてしまったことで、逆に興味深いものがあります。



ほかにも、萩尾望都の名作漫画の40年ぶりの続編『ポーの一族 春の夢』や岩本ナオの異色の中世騎士もの漫画『マロニエ王国の七人の騎士』、好評だった前作に引き続いての中野京子『新 怖い絵』、大河ドラマ「西郷どん」の時代考証も務める磯田 道史の『素顔の西郷隆盛』など色々買いました。ぜひ一度、図書館をのぞいてみて下さい。

『ブリタニカ国際年鑑 2018年版 創刊 250周年特別版』

本の題名通り、今年2018年は1768年に創刊したこの百科事典の250年目(!)という節目の年に当たりますので、毎年出ている年鑑ですが、今年はスペシャルな編集です。詩人の谷川俊太郎や指揮者の小澤征爾など、著名人が数多く寄稿した「明日へのメッセージ」も読みごたえがありますが、ブリタニカ250年の歴史を振り返る特集記事は圧巻です。なお、もちろん年鑑としても、昨年度に起きた事件や日本や世界の国々の最新の統計をチェックできます。

今号のひとこと

吹流し 五月の風を蹴(け)りに蹴る

山口誓子(1901-1994)

「吹き流し」とは、鯉のぼりの上に付けられた5色の筒状のものです。(左の図参照) 5色は中国の「五行思想」に通じ、昔の子どもは病気などで死んでしまうことが多かったので、魔除けの意味で飾られたものなのだそうです。さわやかな五月の風にはためめく吹き流しの様子を「風をけ飛ばしている」と、ダイナミックに表現した俳句で、新緑のころの風を感じられる名句ですね。

作者の山口誓子の自宅は神戸の大震災で倒壊しましたが、神戸大学内に復元されて記念館となっています。